

全国に広がる 思春期研究会

② ちば思春期研究会

前身に続き、全国の思春期研究会の中から「ちば思春期研究会」に活動をご紹介いただきます。本会では、地域に根ざした思春期保健の推進のため、思春期保健相談士の活躍とともに、全国の思春期研究会の取り組みに期待を寄せています。

年2回研究会を企画・開催

研究会の歩み

千葉県看護協会助産師職能理事を務めていた時代に、私の住む千葉県東部で「思春期」

の子どもたちを支援する講座を企画し、それをきっかけに、千葉県内の思春期保健相談士の交流の場として「ちば思春期研究会」が発足した。

会員数は二百名余、初代会長は白井将文先生、現在は武田敏先生に引き継がれている。会則の検討はじめ、年二回の研究会の企画として、県内に周知を促す目的で、年度初の開催は中央(千葉市周辺)



研究会の成果をまとめた冊子を作成

<ちば思春期研究会>

代表 武田 敏
設立 2003年4月27日
会員数 約200人
連絡先 〒264-0021 千葉県千葉市若葉区若松町420-3-1-204
ちば思春期研究会事務局 赤沢 宏治

(2008年8月現在)

で行い、二回目は各地域で開催することとした。

地域周りの開催は、その地域の医師会や養護教諭部会、保健所や保健センターなどを含めて地域のネットワークをつくる良い機会ともなった。

会員の取り組みの発表はもとより、著名な講師をお招きして最新の知見を得たり、地域で実践している会員外の講師を招いての実践報告は支援の輪をさらに深めて、県内の思春期支援のネットワークが必要であることを実感させられた。

ちば思春期研究会の事務局長として、いろいろな人脈とおして、ちば思春期研究会に係わってきた。四年の任期を経て現在は高校教諭の赤澤宏治先生に事務局を務めていただいている。本会がこれまで発展してきたのは、お世辞ではないが、理事さんの人柄がみなさん穏やかで、派閥があるわけがなく、若い方の意見も入れていただき、肩がこらないことである。

思春期学会からは、地域活動支援金を一度もいただき、研究会の冊子を作成した。二年間四回の研究会の原稿を収め、第二巻が発行されている。

研究会の活動

過去の定例会の講演、主なものを以下に略記し、活動紹介とする。

【第一回】
平成十五年四月二十七日
「性教育と思春期保健」
松本清一

【第二回】
平成十五年十一月九日
「思春期男子の性」白井将文
「地域での性教育の取り組み」
斉藤葉子

【第三回】
平成十六年五月九日
「ピアカウンセリング」
高村寿子

【第四回】
平成十六年十二月五日
「思春期男子の主な泌尿器疾患」
高波眞佐治

【第五回】
平成十七年七月十八日
「望まない妊娠と性感染症」
高橋敬一

【第六回】
平成十八年一月二十九日
「千葉県内における性感染症の現状」
水谷俊郎

【第七回】
平成十八年七月十八日
「思春期に問題を抱える子の医療機関との連携」
八田賢明

【新しい家族療法】木下敏子
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第八回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第九回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十一回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十二回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十三回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十四回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十五回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十六回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十七回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十八回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第十九回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子

【第二十回】
平成十九年二月四日
「医療施設を訪れる思春期の現状と課題」
清水幸子